

守護所・戦国城下町の

阿波国勝瑞

しようざい

構造と社会

石井伸夫・仁木宏 編

戦国時代、一〇〇年以上にわたり阿波国の中心地であった守護町「勝瑞」。

阿波細川氏の拠点であり、その被官三好氏はこの地を基盤に京都で政界の覇権を争った。將軍候補や幕府管領も滞在し、ここから捲土重来をはかった。

阿波国は、中世後期から近世にかけて、権力主体が変遷したにもかかわらず、ずっと一国単位で歴史が変遷する。その中心は勝瑞から徳島へ引きつがれた。これを「阿波モデル」として全国の城下町研究に提示する。

ユニークな空間構造をもつ一六世紀の地方都市・勝瑞の姿を、考古学、歴史学、地理学など多様な視角から解き明かし、中世都市史研究を大きく前進させる一書。

▼A5判・三六八頁

定価：本体六、六〇〇円（税別）

ISBN978-4-7842-1884-4

【二〇一七年三月刊行】

内容目次

序章 勝瑞研究と中世都市史 (石井伸夫)

第1部 守護町勝瑞の構造

第1章 発掘調査から考える守護町勝瑞の範囲と構造 (重見高博)

第2章 文献史料から考える守護町勝瑞 (須藤茂樹)

第3章 守護町勝瑞遺跡における寺院の立地とその存立基盤 (石井伸夫)

第4章 室町・戦国期における勝瑞の立地と形態 (山村亜希)

第5章 勝瑞館の景観と権威空間としての意味 (小野正敏)

補論1 城郭史における勝瑞城館 (千田嘉博)

第2部 守護町勝瑞と戦国社会

第6章 勝瑞津と聖記寺の創建 (福家清司)

第7章 歴史的景観復原から見る勝瑞とその周辺 (福本孝博)

第8章 勝瑞と修験道 (長谷川賢二)

第9章 勝瑞をとりまく村・町・モノ (島田豊彰)

第10章 戦国阿波の政治史から考える勝瑞 (天野忠幸)

補論2 絵図資料からみた勝瑞 (平井松午)

終章 守護町勝瑞と権力・地域構造 (仁木宏)



★徳島県板野郡藍住町勝瑞

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
<https://www.shibunkaku.co.jp> E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	守護所・戦国城下町の構造と社会		本体6,600円(税別)	ISBN978-4-7842-1884-4
お名前	tel		本書HPのQRコード		
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

※瀬戸内海地域社会と織田権力

橋詰茂著 思文閣史学叢書
 特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。
 【内容】第一編 瀬戸内海社会の形成と展開／第二編 瀬戸内海社会の発展と地域権力／第三編 地域権力と織田権力の抗争
 ▶A5判・396頁／本体7,200円 ISBN978-4-7842-1333-7

※徳島県の教育史

三好昭一郎・大和武生著 徳島県出版文化賞受賞
 都道府県教育史シリーズ
 各地域の特色ある教育・文化を紹介し、寺子屋・郷学校・私塾・藩校などの教育施設のほか、広く社会・宗教・産業教育などにもふれ、古代から明治前期までを扱う。各地域の教育・文化に貢献した人物をとりあげ、教育的事跡を紹介。付録として教育史年表・参考文献・地図などを収録するシリーズ。
 ▶46判・302頁／本体1,800円 ISBN4-7842-0373-7

住友の歴史 全2冊

朝尾直弘監修／住友史料館編
 近世初頭から銅の精錬を業とし、その後金融・貿易などをも手がけ、近代の財閥につながる豪商の典型である住友の歴史をわかりやすく紹介。上巻では近世鉱山経営（別子）・銅貿易（新居浜）などを中心に、下巻では財閥解体までの近代史を中心に、大阪での文化貢献等にも言及。連続と受け継がれる住友精神の源泉がここにある。
 ▶46判・平均300頁／本体（各）1,700円

※日本銅鉱業史の研究

小葉田淳著
 金銀山の個別の史的調査を集成した、『日本鉱山史の研究』（学士院賞）、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を収めた。
 ▶A5判・870頁／本体19,000円 ISBN4-7842-0760-0

※近世後期瀬戸内塩業史の研究

山下恭著
 塩業と醤油業における開発・経営・塩専売制・流通問題を細かく分析し、さらに塩業における燃料問題と労働条件を数量的に解明した基礎的研究の一書。
 【内容】近世後期の塩業と醤油業—塩田の開発・経営・塩専売制・流通問題／近世後期の塩業の燃料問題と塩業労働—石炭導入と鉛銀分析
 ▶A5判・300頁／本体6,000円 ISBN4-7842-1287-6

日本中世の民衆・都市・農村

小西瑞恵著
 都市とそこに生きた民衆、武士、悪党、女性、そしてキリスト教徒の姿を再検討し、これまでの理解とは異なった中世の社会を甦らせる。前著『中世都市共同体的研究』に続く中世史研究の集大成。
 【内容】第一部 中世都市論—大山崎と堺を中心に／第二部 畿内近国の荘園と武士団／第三部 都市と女性・キリスト教
 ▶A5判・418頁／本体8,500円 ISBN978-4-7842-1880-6

※戦国大名の外交と都市・流通 豊後大友氏と東アジア世界

鹿毛敏夫著 思文閣史学叢書
 西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明かす。
 【内容】第一部 中世都市の構造と特質／第二部 大名権力の流通政策／第三部 大名権力の対外交渉
 ▶A5判・300頁／本体5,500円 ISBN4-7842-1286-8

日本中世の領主一揆

呉座勇一著
 南北朝内乱以降、中世は本格的に「一揆の時代」を迎え、多種多様な一揆の中でも、最初に時代を牽引したのは年貢公事の徴収者にして地域社会の治安維持者であった在地領主による一揆、つまり〈領主の一揆〉であった。本書は今までの研究蓄積の上に、〈領主の一揆〉の構造・機能・結合論理を解明し、新しい国人一揆論を提示する。
 ▶A5判・380頁／本体7,200円 ISBN978-4-7842-1721-2

中近世農業史の再解釈 『清良記』の研究

伏見元嘉著
 戦国末期伊予の軍記『清良記』全30巻を分析。その著者および成立年代を確定し、日本最古の農書とされる第7巻「親民鑑月集」の位置づけを明かす。近世農業の始まりとしての農書という定説をくつがえし、中世農業の最終段階をはじめて詳説したと位置づけ直す。
 【内容】①「軍記」の解釈／②農書の解釈／③「農業史」再見
 ▶A5判・424頁／本体7,800円 ISBN978-4-7842-1562-1

高良斎とその時代 附 日本散瞳薬伝来史

福島義一著
 寛政11年（1799）徳島に生まれ、本草学を乾純水、医学を養父高錦国に、長崎では吉雄権之助、シーボルトに西洋医学を学び、のち大坂で眼科を開業して名声を博した高良斎の生涯と業績を一書に纏める。高良斎著訳書の研究、研究文献、年表を取めた基本図書。シーボルトにも新たな光が当てられる。
 ▶A5判・270頁／本体3,800円 ISBN4-7842-0906-9

住友別子鉱山史 全3冊 優秀会社史賞受賞

小葉田淳総監修
 上巻では元禄4年の開坑より明治32年、いわゆる旧別子時代の終わるまでを取扱い、下巻はそれ以後閉山するまでと更にその後の補遺を記述し、別巻は別子銅山史上の事跡を理解する助けとなる図版・写真・史料等を収録した。開坑300年記念出版。
 ▶B5判・総1500頁／本体73,000円 ISBN4-7842-0643-4

近世鉱山社会史の研究 高知出版学術賞受賞

荻慎一郎著
 鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大葛金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。
 ▶A5判・640頁／本体12,800円 ISBN4-7842-0900-X

※京都の都市共同体と権力

仁木宏著 思文閣史学叢書
 中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町（ちょう）の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的に、理論的に分析した一書。
 ▶A5判・332頁／本体6,300円 ISBN978-4-7842-1518-8

※中世都市共同体的研究

小西瑞恵著 思文閣史学叢書
 陸路水路の要衝大山崎を分析し、国家権力と密接な関係をもつ商業的共同体という観点から論じた大山崎研究をはじめ、古代からの港湾都市である堺都市論、自治都市としての成立過程と内部構造について公界と合会に着目し新たな都市像を示した大湊研究、さらに戦後の中世史を代表する都市論への見解をあきらかにした論考を収める。
 ▶A5判・340頁／本体6,400円 ISBN4-7842-1026-1

在京大名細川京兆家の政治史的研究

浜口誠至著
 戦国期に室町幕府の政策決定に参画した大名を「在京大名」と規定し、その中でも代表的な存在である細川京兆家の政治的位置を明らかにすることで、戦国期幕府政治の構造的性質を解明する。幕府儀礼・奉公人奉書による裁許の補完と幕政代行等を検討し、制度史中心の幕府政治史を相対化する試み。
 ▶A5判・328頁／本体6,500円 ISBN978-4-7842-1732-8

中世都市「府中」の展開

小川信著 思文閣史学叢書
 中世以来、古代国府の後身とも言うべき国々の中心となる領域は、国府（こう）と呼ばれるほか、しばしば府中と呼ばれる。研究が進んでいる古代国府と戦国以降の城下町にくらべ、両者の中間の時代にある中世府中は、意外と見逃されていた。詳細な個別研究を集大成し、中世都市としての諸国府中の全体像を明らかにする。
 ▶A5判・576頁／本体11,000円 ISBN4-7842-1058-X

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
 電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。